

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 やまがらの家)

事業所番号	0673100087		
法人名	株式会社 ケアサービスつきみ		
事業所名	グループホームねずがせき		
所在地	鶴岡市鼠ヶ関字横路9-3		
自己評価作成日	令和元年9月30日	開設年月日	平成16年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 元年 10月 25日	評価結果決定日	令和 元年 11月 6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関先、ホール内に掲げ、実践につなげている。ユニット会議を毎月1回設け、必要であれば別に合同での職員会議を開き、介護理念の確認と取り組みに力を入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元スーパー、魚屋、床屋、カラオケ店を利用し地元の方々とながりが出来ている。又、お祭りの案内、婦人会との交流会や芋煮会にボランティアの協力を得ながら参加している。中学校の福祉体験の受け入れや小学校から学校祭の招待、福祉用具の寄付を頂き贈呈式に招かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は認知症研修等を通じて勉強を重ねており、施設に来て下さるボランティアの方々との交流時に理解してもらっている。運営推進会議では認知症の症状と対応の事例をあげ説明し理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設活動、入退去状況、施設取組みを報告し、意見を聞いてその都度直ぐに対応し、職員会議(ユニット会議)等におろし、改善すべき点は検討しサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し市や包括に事業所の実情や事例を報告し助言を頂いている。合同行事への案内を配布し事業所の取り組みにも協力を頂いている。介護相談員の訪問では利用者の苦情の有無や助言を頂いて協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員が講師となり毎年研修会を行い職員に周知している。職員会議で、特にスピーチロックについて学ぶ機会を持ち、言葉で拘束しない取り組みに力を入れていて毎月のユニット会議で共通認識が持てるように努めている。帰宅願望のある利用者には話題を変えたり一緒に外に出て歩く等利用者に合わせて対応をして見守り、寄り添う事で施設しない介護に取り組んでいる。夜間は「眠りスキャン」を活用し職員が直ぐに対応する事で拘束しないで過ごせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修会等を通じて周知徹底し、入浴時に身体に不自然な傷、痣が無いか確認に努めている。また、利用者の表情や話し方にも注意をし、動静録に記録し職員全員が共有している。管理者は注意深く観察、指導助言を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成年後見制度について掲示(ポスターや書類)し、相談時に話し合える様にしている。実際に市社協に相談し活用に至ったケースがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明し、同意の上に契約している。利用者や家族と面談を行い、不安や疑問点にわかれやすく答え納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の会話の中で、自然な形で意見や要望を聞き取り引き出している。家族等の面会時には居室も案内し話しやすい環境作りができるように配慮し要望を反映している。アンケート・意見BOXを玄関に設置し要望等の受付をしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議があり、意見や提案が出来るようになっている。法人役員の出席する管理者会議で、それらを全て報告し提案、意見の内容によっては、直ぐに業務改善につなげている。法人役員との個人面談も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に合わせて勤務形態を組んでいる。職員が資格取得に向かえるように職場環境を整えている。職員会議等での意見要望を取り入れ働きやすい環境の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職場内部での研修会を職員交代で講師になり行い、個々の実績と力量を把握し外部の研修を受ける機会を設けている。研修で勉強した内容を職員会議で報告し実践に繋げている。資格取得できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区のGH連絡会主催の研修会や資格取得のための研修会を通して他事業所と交流し、良い所は持ち帰り、職員会議等で報告し自施設へ反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談し、本人が困っている事、不安な事を聞き取り、納得して頂いて利用開始している。入所してからも、日々の会話や様子の中で不安や要望を確認するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き取り、施設での出来る範囲をお話して、その要望等を職員が共有して、家族の協力を得ながらサービスを開始するようにしている。 面会時等に利用開始後の利用者の様子を話したり、月1回の広報で利用者の様子を伝えて信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来た時は、必要な支援を話し合い、他施設の紹介も含め、本人にとってより良い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの生活や身体の状態に合わせ、寄り添う事を基本として、同じ目線になるように努めている。 掃除や洗濯、食後の片づけ等、職員と利用者が支え合って毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や広報で状態を伝え、急な時は電話連絡をして知らせている。家族との外出や交流を促したり、墓参りや一時帰宅、通院は出来る範囲で家族にお願いする等本人を支えて協力を図り関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊には常に応じ、電話の希望等必要な支援を行っている。面会では友人知人も積極的に受け入れ、施設の外出先に地元を希望する方は叶えるようにしている。入所前のかかりつけ医や理容店等、利用を継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を知り、居室や席の配置等配慮し、行事等では個人の特技を活かし発表を行う等、関わり合えるような支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、「いつでも、何かありましたなら相談に応じますから」と声掛けをし、連絡があった場合は丁寧に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別性を中心に理念に沿った寄り添いを基本にしている。ゆっくりと話を聞き入れ、何を望んでいるのか、気持ちを把握するように努め、カンファレンスや申し送り時に検討して利用者本位のサービスに努めている。居室でテレビを見たりCDを聞いたり思い思いに過ごしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や契約の際の面談時、家族からの聞き取り（人生の歩み）を行い、以前の利用事業所等からの情報を把握し、それをセンター方式に落として活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員からの情報や、日々の状態で変化があれば、その都度密に情報を共有して動静録、温度版に記録をして誰が見てもわかるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向を伺い、職員、看護師と話し合い作成している。自室で過ごす事が多い利用者は「眠りスキャン」を参考にし、毎月のカンファレンスをチームで話し合い、3ヵ月毎モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過を観察し、定期的カンファレンスを行い、変更があれば申し送りをし、ケアプランのサービス内容を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理容店へお連れしたり、出張利用に来ていただいたり、スーパーへ買い物に出かけたり、地域の祭り、小学校の学校祭見学を楽しんだりしている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、往診等その時々合った医療が受けられるように、かかりつけ医等と密に連絡を取っている。特変時の受診の際には家族に連絡を行い記録に残している。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた事があった時は直ぐに看護師に相談し、情報を共有している。必要に応じて指示を受け、適切な受診や看護を受けられるようにしている。看護師によるオンコール体制も整備している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は直ぐに介護サマリーにて情報を提供している。入院中の面会には医療者と情報交換し、家族と相談する関係づくりを行っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りサービスについては提供していない。契約時に看取りに関する事業所の方針を家族に説明し同意をもらっている。医療機関と連携を取りながら可能な限り希望に添えるように対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがあり、救急講習で救急隊員の方から指導を受けたり、職場の研修でも訓練をしている。心肺蘇生については何度か実践に繋がった事がある。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災訓練を行い、運営推進会議を通して地域の方々に協力を得られるようお願いしている。消防署の協力で訓練をし指導も受けている。また地元庁舎で行っている津波避難訓練等にも参加を予定している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失敗や間違いがあっても自尊心を傷つけない声掛けをする様に気を付けている。排泄や入浴の際にも羞恥心に配慮しながら支援している。内部研修を行い、実際の場面でも職員間で不適切な対応が無いよう注意し合っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に寄り添いながら言葉かけを工夫し、衣類やおやつ、その他にもその場面に応じた選択等自己決定できるように働きかけている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、一人一人のペースに合わせ、何をするにもその都度声掛けし、利用者の意向を汲むように支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は服装に気を配り身だしなみを整えて出かけるようにしている。 理容室へ行ったり、出張理容も利用している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で食べたいものを聞いたり、外食の機会を設け食の楽しみにつなげている。山菜の下処理をしたりメニューを書いたり利用者が出来る事を職員と一緒にしている。行事メニューや地元の食材も取り入れ、手作りの食事の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ食事を提供している。見た目も重視して、地元の食材を取り入れながら山海の幸を楽しんでいる。水分量も温度版を使って管理し、冷温のお茶ポットや補水液を用意して毎日提供している。水分嫌いの方には好みの飲み物で対応している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人でできる利用者には声掛け、見守りを行い、出来ない利用者にはブラッシング介助、義歯の方は外してうがいの支援を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	温度版とホワイトボードを活用し、一人一人の排泄パターンを確認して適時の声掛けで誘導している。夜間オムツ対応の利用者も、日中はリハビリパンツに交換し、トイレでの排泄を促している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便ノートによるチェックに力を入れ、朝夕の申し送りにて確認している。軽運動、腹部マッサージを行い、主治医と相談し個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2つの浴室があり毎日入浴できるようにしている。大きな浴槽には仲の良い利用者が一緒に入り楽しんでいる。歩行が難しい方は機械浴で安全に入浴してもらう等希望を聞きながら個々に応じた支援をしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々個人の生活リズムに合わせて居室で過ごしたり、ソファで横になったり、歓談したりと、思い思いに過ごし自由に休息している。「眠りスキャン」を活用し夜間の睡眠状態を把握し日中の過ごし方を工夫し夜間の安眠に繋がる様に支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに綴り、常時職員全員が確認できるようになっている。処方が変わった時は状態の変化を共有し合い確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を活かした役割を持ってもらい、裁縫、編み物、カラオケ等いつでも出来るように支援している。演芸会や敬老会等、得意な事を披露する機会があり、練習を含めて楽しみごととなっている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者との日常的な会話の中での意見を取り入れ外出先を決めたり、天気が良ければドライブ、散歩、ゲートボール、草取り、カラオケや外食店等職員と一緒にやっている。、本人、家族の希望で一時帰宅や家族でホテルへ宿泊等の調整を行っている。思いに配慮しながら支援している。パラ園見学では地域の協力で階段や坂道を上る事が出来希望にそった外出に繋がっている。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望に応じて支援している。本人が金銭管理が出来ない場合でも、施設が立替し、外出時買い物出来るようにしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等折に触れハガキや手紙が届き、電話を掛けたりと本人の希望によって支援している。手紙の代筆を職員がする等の支援も出来るようにしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大型窓には季節の張り絵をしたり、夏には居室に暖簾を掛けたりと季節感に合わせている。ゆったりと座れるソファー、長い廊下で一休みできる長椅子、玄関やホールに花や作品を飾ったり、天気が良い日はテラスに出て、お茶を飲んだり美しい夕日や海を見たり出来るようにしている。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子やソファーを利用して一人になったり、一緒に過ごしてテレビを見たり出来るようにしている。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンスを使用したり、人形や家族の写真、お孫さんの作品を飾ったりと居心地よく過ごせるように工夫している。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで居室内の給湯器も火傷しないよう温度設定してある。冬はホールにカーペット状の床暖房も設置し、その上でテレビを見たり自由に過ごせるようにしている。 配膳下膳を毎日の仕事にする等、その人その人に合った支援が出来るよう工夫している。			